

所 属 鳥取県漁業協同組合（御来屋支所）  
氏 名 なだもと かつひろ  
灘本 克浩（39歳）  
船 名 さつきまる  
皐月丸 4トン  
漁業種類 刺網（サワラ・アジ・ハマチ）、曳縄釣り（サワラ）



### ～代々伝わる御来屋漁師の精神を受け継ぐ若手漁業者の代表格～

いつも漁師さんらしい威勢の良い声で話かけてくる灘本さん。御来屋の浜に活気があるのは、灘本さんのようなやる気に満ちた漁師さんが多いからに違いない。

灘本さんの叔父の雄一さんも御来屋の漁業を支えてきた一流の漁師。子供の時から良く雄一さんの手伝いをしていたこともあり、一度は広島でコックとして働いていたが、地元に戻り、漁師になることを決心した。

研修期間中は雄一さんが指導にあたり、他の漁師よりも特に出漁日数が多い叔父さんは少々の特化でも出漁するのが当たり前。スパルタ教育で自分の誕生日でもお構いなしに、一日中漁をした時はさすがに堪えたようだ。

無事に独立したものの、不運にもその年は現役漁業者さえ不漁に嘆いた年。自らも漁がなく道具一つ買えず苦しい思いをした。そんな苦勞を乗り越えたからこそ今は御来屋の若手漁業者の中心的な存在となり、漁業士として、地元水産高校の生徒に漁師の魅力について講演することもある。「サワラなど県外への出荷がほとんどだが、地元の人にももっと食べてもらい鳥取の魚のおいしさを広めたい」と熱く語って頂いた。

### ～自然相手の仕事だからこその悩み～

「漁師は時間や予定に縛られることはないが、天候や自然現象に左右され、予定が組めない」と悩む灘本さん。予定が合うのは漁師さん同士で、休みの日も熱心に情報交換も兼ねて同年代の淀江や赤碕の漁師さんと遊びに行くことが多いそう。素敵な女性にはなかなか巡りあう機会がないとのことだが、ぜひ持前の威勢の良さでお相手探しも頑張ってもらいたい。

（文責：藤原 大吾）